

<スライド1>

平成32年度インターハイ開催経費確保に向け、全国高体連として取り組む「2020インターハイ特別基金」制度について、高体連加入・登録生徒を対象とした基金を説明するためのプレゼンテーション資料です。

実際の説明は、以下のスライドから

<スライド2>

これから平成32年度（2020年度）インターハイの開催経費の確保に向けて、全国高体連が取り組む「2020インターハイ特別基金」制度について説明します。

<スライド3>

皆さんご存知のとおり、平成32年（2020年）には「2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会」が開催されます。

皆さんの中からも、ぜひこのオリンピックに選手として出場し、活躍してくれることを期待しています。また、オリンピック・パラリンピックのスタッフとして直接かかわることになる人もいます。

選手をはじめ、世界中から来日する人たちを「おもてなし」の心でお迎えしましょう。

<スライド4>

ところが、オリンピック・パラリンピックとインターハイの開催期間が重なってしまい、平成32年度のインターハイは例年の日程での開催ができなくなりました。

また、インターハイは決められたローテーションによって全国各ブロックで開催されており、平成32年度は北関東4県で開催される予定でした。オリンピック・パラリンピックの開催地である東京に近い北関東では、例年のように宿舎を確保することが難しいことなどの理由から、インターハイの30競技全てを開催することができなくなりました。

<スライド5>

様々な問題を検討した結果、平成32年度インターハイは、8月10日～24日の期間に北関東4県で11競技、残りの19競技を北関東以外の全国都道府県で分散して開催することとしました。

<スライド6>

しかし、分散開催の候補地の確保は難航しています。先ほども触れましたが、インターハイは決められたローテーションにより開催されてきました。隣の県などでの分散開催はこれまでもありましたが、今回のように、全国を対象とした大規模な分散開催の候補地探しは初めてのことで調整がうまく進んでいません。

とりわけ開催経費の負担については大きな課題で、調整難航の最大の理由になっています。

<スライド7>

インターハイを開催するための経費は、開会式を除いて総額で約12億円ほどかかっています。競技別の経費は競技により大きく異なりますが、1競技あたり平均すると約4千万円が必要となります。

例年のインターハイでは、その開催経費の7～8割を開催地の都道府県や市町村に負担をしていただいています。

しかし、平成32年度のインターハイは通常のローテーションとは異なる緊急例外的な大会となるため、開催地からの経費負担が非常に厳しい状況です。そのため、その開催経費を全国高体連として確保する必要がでてきました。

<スライド8>

19競技の分散開催が決定してから開催候補地の確保に向け、これまで様々な取り組みを行ってきました。しかし、調整は難航しています。調整難航の最大の理由は、開催地の開催経費負担の問題です。このまま開催候補地の確保ができないと、平成32年度のインターハイで開催できない競技が出てくる可能性も考えられます。

全30競技を中止せずに開催するため、全国高体連として開催経費を確保することにより、各都道府県に開催を受け入れていただくと考えています。

<スライド9>

全国高体連では、各競技種目の開催経費の大幅な削減を図りながら、協賛企業の獲得をはじめ開催経費の確保に努め、基本財産の切り崩しも考えています。さらに開催経費確保のための「2020 インターハイ特別基金」制度を立ち上げ、平成28年度から協力をお願いしてきました。

<スライド10>

「2020 インターハイ特別基金」は、皆さんのように運動部で活動している高校生をはじめ、広く呼びかけをして協力をお願いしています。

呼びかけの対象は、運動部のOB・OG、保護者や一般市民の皆様、そして企業や法人・団体等です。また、文化部の高校生など運動部で活動していない高校生も対象とします。

特別基金への協力については、全国高体連のホームページに関連文書を掲載しています。

<スライド11>

とりわけ、運動部で日々活動しインターハイを目指している皆さんには、特別基金への協力をぜひお願いします。

2020年のインターハイには皆さんが参加するわけではありませんが、皆さんの協力により2020年の高校生が参加できるインターハイをぜひ実現させてください。

<スライド12>

高校生の皆さんには、この特別基金の趣旨に賛同いただければ、1人一口100円程度を目安に基金への協力をお願いしたいと思います。

なお、この特別基金への協力は強制ではありません。皆さんの意思と自主的な判断により協力をお願いするものです。

<スライド13>

特別基金にご協力いただける方は、在籍している学校又は加盟登録している競技専門部などからの指示にしたがって特別基金への協力をお願いします。

<スライド14>

特別基金は、平成32年度インターハイが開催される年の6月までの期間で、目標額を7億円としています。集まった基金は、全て平成32年度インターハイ開催地の都道府県・市町村の開催経費として充当します。

特別基金の集約状況については、全国高体連ホームページに掲載していますが、基金総額はまだまだ少ない状況です。

平成32年度のインターハイの30競技全てを中止せずに開催できるよう、皆さんには趣旨にご賛同いただきぜひ協力をお願いします。